

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩 (けやき棟)		
所在地	島根県鹿足郡津和野町河村506-3		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平均年齢が90歳を超え、百寿を迎えられる方がおられます。ご家族様との面会が難しい中、誕生日には職員と入居者が一緒に誕生日ケーキを作って長寿のお祝いを皆でしています。敬老会は年間行事の中でも盛んで、ご家族様からのメッセージを映像で流したり家族の繋がりを大切にしています。また、オンライン面会の運用開始により遠方のご家族様やお孫さんとの交流も図れています。コロナ禍で地域との交流が難しい中、花見や紅葉ドライブ、町内に出掛けたりして自然豊かな地元での暮らしに思い出が蘇ります。お墓参りや故郷訪問など入居者様の希望に添った支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「家族に会いたい」「外出したい」の気持ちを受け止め、管理者、職員が話し合いながら利用者が楽しみや役割を持って過ごせる様に工夫して支援している。コロナ禍でリンゴ狩りに出掛ける事が出来なかったが利用者と一緒に道の駅にリンゴを買いに出掛ける等出来ることを探り継続支援に繋げている。ホールではテレビを見て歌う人やグリーンカーテンの胡瓜の成長を見て会話をしたり、洗濯物たたみ、掃除、クリスマスや誕生日には得意なケーキ作りをする等一人ひとりが楽しみながら生活している。散歩時には職員は必ずスマホを持参し、利用者の瞬時の表情をカメラに撮りタブレットに転送し職員間で共有し介護計画に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での大家族として支えあえる町づくりを目指した理念を入社時のオリエンテーションにて説明しており、ホール内にも掲示してある。理念を意識したケアに繋がるように、スタッフ会議にて唱和している。	目につく所に掲示し会議時に唱和して全職員で理念を共有している。利用者の人格を尊重し寄り添い傾聴し健やかにその人らしく過ごせる様に支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の公民館活動にできる範囲で参加している。防災に関しても地域の活動に参加して情報交換をしており、防災組織の立ち上げの際には、参加を予定している。	地域の人から花の鉢植えを貰ったり、所属の自治会から敬老祝が届いた。公民館の防災講座に参加し、防災組織立ち上げ時には参加の要望を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	悠心彩通信を地域に回覧していて、活動の状況を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍なので対面で行えず書面会議となっている。意見を返信してもらうように対応しているが、感想を頂くことが多い。書面なので状況を分かり易く報告することに努めている。	利用者の状況や行事、職員の研修内容などを報告し委員から質問を受けたり助言を得ている。欠席者には議事録や利用者の写真など郵送し意見や要望を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議(書面)で、事業所の状況を報告し意見があれば電話での回答をしている。コロナに関しての報告や他の事業所の現況について問い合わせたり情報交換している。	運営推進会議で状況を伝えている。コロナワクチン接種を事業者所内で出来るよう担当者と相談し実施した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、自己評価を実施し、理解の確認をしている。3か月に一度の身体拘束・虐待の研修では、グループワークや演習をして理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に会議を行い「スピーチロック」について話し合ったり、歩き回る利用者の行動を制止せず一緒に行動し、利用者の思いを知り職員間で共有し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ研修内で、研修のテーマに取り入れ、どの行為が虐待になるか、通報義務など基本を繰り返し学ぶ機会をつくり、職員同士が開かれた関係性・相談しやすい職場づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修のテーマに取り入れて学ぶ機会を設けている。既に日常生活自立支援事業を利用している方も必要時には社協と連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族様と面会し、施設での暮らし、入居費用などの説明を行い、納得して頂いてから契約の締結をしている。契約時も、時間をかけ十分な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。コロナ禍での面会制限はあるが、電話や来所時に意見や要望があれば管理者会議や運営推進会議にて報告している。	電話や訪問時、また、担当者が利用者の近況報告を写真を添えて行い意見や要望等を聞いている。窓越し面会やオンライン面会等個別に対応している。来年度は家族会再開を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に代表者や役員の参加がある。職員のリアルな声を聴く機会になっており、相談できる環境になっている。	管理者は日頃より職員からの相談を受けたり意見を聞くことに努め、その都度、助言やアイデア等を伝え運営に反映するよう取り組んでいる。コロナ禍での人員不足等を相談し取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議に代表者が参加し、職員の顔や日々の職場の環境を見てもらっている。職員個々の勤務条件も話し合いできちんと整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後からは入社プログラムに沿って育成し、新人研修など外部のマナー研修にも参加している。その後も認知症基礎研修や実務者研修など該当者は積極的に参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者と交流する機会は少ないが、津和野町主催の研修会に参加したり、口腔ケア講習に代表で参加し、自施設での研修発表の場を設けた。交流や研修会の機会があれば出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報提供書を見て把握・行動・言動を観察しながら情報収集をし、積極的に話をしながら不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の段階で現況の把握、要望等を細かく聞いている。情報を基にスタッフ全員が共有し、ご家族が安心できるようなサービスの提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現況の把握と本人が必要とされる支援を検討してご家族様に報告している。他のサービス利用が必要な時には、本人やご家族様と相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を考えスタッフと一緒にできることを探しながら、共に生活をしているという意識を持つことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限をしており、面会が難しい状況ではあるがオンライン面会は可能である。話をする機会をもち近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にもご友人からの電話が掛かってくることがある。お盆には墓参りやご自宅の辺りにドライブに出掛けたり個別に対応している。	窓越し面会や孫とのライン面会を実施し、家族との関係継続に努めている。移動理美容の定期訪問や墓参り、馴染みの場所へのドライブなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を把握しながら席を決める。誰とでも話が出来るような環境づくりに努めている。様子を見ながら交流できる場面をつくるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されていた方のご家族様から問い合わせや相談があるときも支援できることは対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動から思いや意向を把握し、どんな暮らしが合っているのか職員同士で共有し良い生活が送れるよう努めている。	日常生活で行動や表情、会話等から思いを把握し新しい情報は日報に記録して職員間で共有している。意思疎通が困難な人には目線を合わせ、寄り添い一緒に過ごして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等を確認し、どんな生活をされていたのか、どんなサービスを利用されてきたのかをしっかりと職員同士が共有し話し合いもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴や習慣などを把握し、ひとりひとりの趣味や得意なこと、苦手なことを見極め、個々のペースに合わせながらゆっくりと過ごして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状態については日々変化があるため記録をしている。課題やケアのあり方を職員同士が話し合い、ご本人やご家族の意向を含めて介護計画を作成している。	訪問時や電話などで家族の要望を聞き、職員や関係者の意見を聞きながら、利用者の出来ること、得意な事を活かして生活が送れるように介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や夜間での出来事を共有し気になることがあれば意見を出している。実践と結果を振り返り、いろいろな視点を持つことで見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で遠方にお住まいのご家族は帰省ができないため、家の鍵をお預かりしてお墓参りや帰宅願望時には家に行ってみたり、必要な服を取りに帰ったりして個別の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月ごとに移動理美容車を利用し、毛染めをされたり、お顔そりをされたり希望に沿った支援をしている。町内の名所に出掛けたり、近くの道の駅にも気分転換に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様から希望があれば入所前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。移動に負担がないように協力医療機関に変更して頂く時もあるが、本人やご家族様が納得された上で支援している。	毎月1回の訪問診療や、歯科、皮膚科等の専門外来は看護師が同行し情報を家族と共有している。コロナ禍での発熱時には、かかりつけ医の指示で対応がスムーズに出来た。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや相談をすぐできる関係性であり、その都度指示を得ながら利用者に支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携は密に行っている。入院した場合や退院に向かっての話合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、本人の希望や家族で話し合ったことがあるか入居時に聞いている。重度化した場合には、今後予想されるリスクの説明と共にご家族や主治医との話し合いを重ねて、終末期に向けたケアをチームで取り組んでいる。	終末期に向けた方針を関係者と共有しチームで取り組んでいる。時間帯や回数制限無しでの面会、感染予防対策の服装等、その都度話し合いながら今年度3件の看取りに取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会の研修において、急変時の対応についてグループディスカッションをしている。年1回、AED講習会を開催し実践を重ねることですぐに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で行う研修や訓練に取り組み、地域での防災講座に参加することで地域との関係づくりができています。緊急連絡網に近隣住民者で協力いただいている。	前回の反省や助言を参考に風水害や火災等の災害に対して定期的に訓練を実施している。利用者と一緒に消火器の使い方や避難訓練を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	就労されていた方、農業されていたりと今までの暮らしを把握したり、ジェンダーフリーの対応の見極めなど楽しく過ごされるように対応している。スタッフも、法令遵守や言葉がけの研修を行って意識づけをしている。	利用者を尊重した言葉遣いや対応を心掛け、研修で学びながら意識して取り組んでいる。排泄の声掛けは小声です等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の時間は決まっているが、起きられなかったり、あとで食べるねと言われた方には個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩が好きな方は施設周辺を歩かされている。貼り絵が好きな方は作品づくりをされたり、居室でゆっくりしたい方にはご自宅から持ってこられたテレビを観たりと個人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は利用者の方に選んでもらっている。選ぶことが困難になっても、色合いや気候に合わせながら選ぶようにしている。移動理美容車で毛染めやカットの依頼も希望に沿った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の食事量を把握し、多すぎず少なすぎない適量の食事を提供している。また、利用者にも手伝って頂き、見栄えの良い盛り付けを心掛けている。	朝、夕食は職員が作っているが昼食は併設するデイサービスで作っている。利用者は盛り付けや片付け等出来ることを行っている。柏餅やしそジュース、かき氷等季節のおやつを職員と一緒に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取については決まった時間に提供しているが、その際に十分な摂取ができなかった場合には、個別に十分な摂取になるように代用食等を提供している。咀嚼困難な方にはお茶ゼリーやムース食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をしている。声掛けや見守りをしてできる方やスポンジブラシや口腔ウェットティッシュを利用しながら本人の状態に沿った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間はタブレットで記録しており、時間が空いていたり本人の仕草や様子を見て羞恥心に配慮した声掛けや誘導をしている。	一人ひとりの排泄状況をタブレットで記録し個別支援に繋げている。夜間も利用者の希望に添って声掛けや誘導をし、トイレで排泄出来る様に支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きをよくするために起床後には水分の提供をしており、リハビリ体操を行い身体を動かしている。水分摂取が困難な方にはお茶ゼリーやジュースゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作成しており、日にちが空いている方を優先に入浴の声掛けをしている。夕食を食べた後で入りたいと希望された場合にもできる限り希望に添うような対応をしている。	曜日や時間帯を決めずに利用者の希望や状況により柔軟に対応している。夏場には夕食後に汗をかいた利用者から入浴希望があり対応し喜んで貰えた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて電動ベッドの機能を利用している。マットレスも褥瘡予防のマットレスに変更してみたり、本人の状態に応じて室温や掛物を調整しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴の把握と使用している薬をお薬手帳で確認している。変更や追加の時には、状態の観察を行いNSに報告や相談をしている。錠剤や粉薬の飲み込みが困難な方には、NSと相談して服薬の介助に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳む事を自分の役割としてされる方もおられる。誕生日会の度にケーキづくりを手伝って頂いたり、日々の家事仕事の中にも楽しんでもらえるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には施設周辺を散歩したり、中庭に出てシャボン玉をしたり気分転換を図っている。コロナ禍で地域の人々との交流は難しいが家の近くまで出掛けている。	町内の馴染みの場所や、花見、紫陽花、紅葉のドライブに出かけたり、天気の良い日には周辺の散歩や中庭で日光浴やレクリエーションをして楽しめる様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側でのお金の管理は難しい為、所持している方はおられないが、おやつやジュースなどを購入するお金と一緒に買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をしたいと要望があれば対応しており、施設側から掛けた時も電話を代わってやり取りをされている。携帯電話を持っておられる方も普段はお預かりしているが、掛れば取り次ぎ要望があればお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の壁に季節の飾り物を一緒に作成して飾っている。塗り絵や色鉛筆、冬場にはブランケットをフリースペースに置いており自由に使えるようにしている。	今年の干支や季節に合った貼り絵、飾り物を毎月職員と一緒に作製しよく見える位置に飾り付けをしている。テーブルで好きな塗り絵をしたり、テレビで歌番組や動物の動画を見たり好きなことをして過ごせる様にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子やリクライニングの方もおられるので通路幅を広くとり、席やソファの位置も考慮している。窓の近くにソファを置いていて、日向ぼっこをされている。廊下の端に外が見られるように椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家で使用されていた馴染みの品を持ってきて頂いている。家具やベッドの配置も居心地が良く、安全で過ごせるように工夫をしている。	自宅で飼っていたペットと同じぬいぐるみやテレビ、家族写真等持参している。テレビを見たり、貼り絵をして過ごす利用者もいる。転倒防止の為、歩行をさえぎらない家具の配置をして安全な環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かり易いように紙に書いて表示したり、困ったときには声掛けをしている。居室の表札も各々が見やすいように位置を変えている。居室内の環境も個人に合わせて整えている。		